

B—37 農薬用防除衣の着用効果ならびに管理法
に関する研究（第1報）

—防除衣のむれと農薬の滲透度に関する研究—

東京歯科大 上田 喜一
陸上自衛隊衛生学校 河合 正計
繊維消費学会 近藤 邦成
農林省生活改 ○百武しのぶ

1. 最近農薬の種類と使用量が多くなり人体への影響も複雑化してきている。農薬散布の時期は真夏が最盛期であるので、涼しい防除衣を研究し、さらに補助衣、保護具などを組み合わせることにより、農薬の体内侵入を防止しようとするものである。

2. 本研究は、現在多くの人が着用しているビニール製雨衣と改良防除衣とのむれの程度をしるために現地実験を行なった。さらに防除衣として適切と思われる材質4種をえらび、防水加工、未加工のものを試布として、農薬の滲透状況を室内実験したものである。

3. 以上の実験から、むれによる身体への影響および

材質別に農薬の滲透度をしり、より涼しい防除衣として適切な材質に関する示唆を得た。しかし本研究は、第2報とともに二年計画の第一年のものである。